

伸びよう 伸ばそう 青少年

～大町市青少年育成市民会議～

第42回青少年育成市民大会開催

第42回大町市青少年育成市民大会が8月22日（土）に大町市文化会館ならびに周辺施設で開催されました。約140名近くの市民の皆さんが参加され、全体会・分科会を通して青少年の健全育成の機運を高めることができました。



1、青少年健全育成の功労者を表彰

大町市の青少年健全育成に功績のあった2名の方と2団体に会長の柳原市長から賞状の授与がありました。受賞された皆さんは次の通りです（敬称略）。

＜個人＞・平林 操 ・清水 章

＜団体＞・アルプス囲碁村推進協議会 ・信州・大町山の子村



2、分科会の実施

本年度も4つの分科会が開催され、参加した幅広い年齢層の皆さんによってグループ討議が熱心に行われ、様々な考えや意見を共有して、健全育成への意識を高めることができました。

第1分科会 テーマ：子どもの自立を育む地域・学校の協働活動

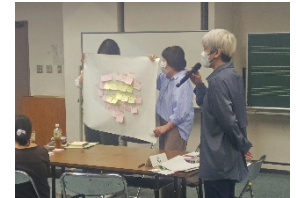
○大町中学校こぶし学級で実践されている地域の方とのいろいろな協働活動の様子を映像で紹介していただきました。学習のきっかけや自己有用感を高める活動など子どもたちが自ら考え、動き出す様子が伺え、学校・地域が協働して子どもたちの成長に関わる大切さが提案されました。



○6グループに分かれてのグループ討議の中で、それぞれの立場から多様な意見がだされ、学校と地域が協働する良さや課題が討議されました。学校と地域が協働して子どもたちの成長に関わるのが大事になることに理解が深まりました。

第2分科会 テーマ：子ども達の成長と自立を支える居場所づくり

○参加者の希望によりここ数年開催している分科会です。自分の手で得られるような食育活動や多世代交流といった「みあさの森」での子どもたちの活動の様子を映像で紹介していただきました。子どもの自立とは、大人がどのように支えていくか、和やかな雰囲気の中でグループ討議が熱心に行われました。



○子どものころに培う感覚の育成、自分が必要とされることややりたいことが認められることなどの大切さを周りの大人や地域の皆さんが理解し「自分をしっかりもち生きる力を育む居場所」づくりの大切さなどを共有することができました。

第3分科会 テーマ：ネット社会で生きる力を育むために～自分とまわりが幸せになる情報機器との関わり方～

○例年のテーマを継続し、身近なデータや資料などを示していただき、生成AIをはじめとしたネット社会での新たな課題や方向性について提案がありました。情報機器をどのように使用すれば自分もまわりも幸せになるのか、6グループに分かれて話し合いが行われました。



○現状とこれからの課題について参加者の理解が深まり、情報機器の使用には家族としての取り組みや大人の関わり方が大切なことを学びました。情報機器の扱いには「立ち止まり、考え、行動する」意識に大人も子どもも一緒に挑戦する大切さを学びました。

第4分科会 テーマ：食生活の原点となる乳幼児期からの食育について

○提案者の素朴な質問から、昨今の子ども達の食事の様子を皆で振り返りました。特に乳幼児期に身につけた食事の仕方や概念は将来の心身の健康につながることを共通理解し、食べることをポジティブにとらえられる子どもたちの成長をめざし大人としてどのようにかかわればよいのか、グループになって意見交換が行われました。



○乳幼児期には、食べる技能を見つけていることが大事で、それを教えるのは大人の役割。「食べることが楽しい・嬉しい」となる食生活や生活習慣、社会性の育成について、共通理解することができました。